

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 26 年度

事業所番号	2770700678		
法人名	社会福祉法人 博光福祉会		
事業所名	寿里苑フェリスグループホーム		
所在地	大阪府河内長野市加賀田885-2		
自己評価作成日	平成 27年 1月 10日	評価結果市町村受理日	平成 27年 3月 18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvsoCd=2770700678-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 27年 2月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、老人保健施設併設型であり、家庭的な雰囲気は他事業所に比べ、劣るかもしれません。しかし、毎日いろんな職員やボランティア、老人保健施設やデイケアのご利用者に関わることができ、にぎやかで、ご利用者や職員の笑い声が絶えない事業所です。自慢できる事は多くありませんが、ご利用者が笑顔で生活出来るよう、職員はご利用者にとって身近な存在でいられるよう、笑顔で明るく元気に皆様と関わるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

老人保健施設、デイケアセンター等に併設された1ユニットのグループホームです。理念に掲げている「皆さまの立場にたち、誠意をもって行動すること」を職員は実践し、利用者に寄り添った暮らしは、大型施設を感じさせない家庭的で穏やかな雰囲気を作っています。併設の施設からは、医療面・介護面での支援が得られ、利用者が安心できる豊かな暮らしに繋がっています。ホームの立地は自然環境に恵まれ、リビングや居室から開かれた眺めの山々や桜並木が見られ、四季折々の自然を感じることができます。ホームでの毎日は、利用者や職員の笑い声が絶えない暮らしで、家族の一員として暮らしている愛犬も、利用者や職員の癒しとなっています。「作って嬉しい・もらって嬉しい」をモットーに作られた介護計画に沿ってその人らしい暮らしの支援を実践していることが、利用者の穏やかな表情から伺えます。管理者・主任をはじめ、サービスのさらなる向上を目指す姿勢から、今後より一層の充実が期待できるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>法人理念にもあるよう、開設当初より『地域に根ざした』運営を実践してきたつもりです。事業所で全てを完結してしまいうのではなく、地域の関係各機関と協同し、ご利用者の利益を第一に考えた運営の実践に努めています。</p> <p>職員で考えたホームの理念を開設当初よりホームの入り口に額に入れて設置しており、職員は理念の通り、地域の理解と協力を得ながら、ご利用者本位の支援を実践しています。又、定期的に発行しているホーム便りにも、ホームの理念を年1回掲載し、ご家族にも周知して頂けるよう努めています。</p>	<p>「皆様の立場にたち、話し合いをもち、大切な家族の一員であることをお約束します。地域・家族あらゆる機関の協力を頂き、皆様がいつでも安心できる住まいであることをお約束します。私たちは誠意をもって行動し、努力することを約束します」を事業所の理念とし、実践しています。理念は、ホームの入口の利用者や、職員が目につくところに掲げています。ホーム便りに年1回理念を掲載し、家族や地域に周知しています。職員間では、会議や研修時を始め、日常的に一人ひとりを大切に、利用者に寄り添う考えを確認しています。</p>	<p>今後、理念に基づいた具体的な年度目標等を作成し、さらなる理念の実現に活かしてはいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	買い物や散歩で地域の方々と挨拶をさせて頂く機会が多くあります。散歩がきっかけで、毎週、傾聴ボランティアに来て下さっている方との交流も7年になり、ご利用者にとっても顔なじみの関係となっています。又、老人保健施設に併設している事で、歌や踊り等のボランティアの来訪に大変恵まれており、果物やお菓子の訪問販売もご利用者の楽しみの一つとなっています。	老人保健施設に併設しており、地域ボランティアの来訪に恵まれています。ホームと同じフロアにデイケアセンターがあり、地域を感じる環境です。ホームで飼っている愛犬との散歩で、日常的に地域の方と触れ合い、交流を図っています。散歩で知り合った地域の方が、利用者の話し相手のボランティアとして、訪問する機会に繋がりました。中学生の職業体験も受け入れています。地域住民の認知症に対する理解が広がり、認知症介護に関する相談も入るようになりました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	事業所に関する内容だけでなく、認知症についても、随時、電話や見学での相談を受け付けています。受身的な体制ではありますが、現状でできる限りの事を、誠意を持って対応していきたいと考えています。 又、地元中学生の職業体験の受け入れを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、定例の報告とは別に意見交換の場を設けています。地域の高齢化の状況や他施設の情報等、時事問題を話し合うだけでなく、買い物や外出場所等に関する情報も教えて下さり、大変意義の大きい機会となっています。又、当ホームの良い点等も意見を下さり、職員のモチベーションの向上にもつながっています。会議録や外部評価の結果を自由に閲覧出来る環境を整えており、意見を伺う機会も設けています。	会議には、地域の代表、老人会婦人部長、地域包括支援センター職員、市職員が参加しています。内容は、ホームの活動報告、意見交換、課題の検討を行い、会議録を作成しています。会議録は自由に閲覧できるように、玄関に設置しています。家族の参加は現在ない状況ですが、会議をより充実するためにも家族の参加を呼びかけています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことがあれば、随時、市の担当者に確認し、アドバイスをもらいながら運営を行っています。又、事故報告も行なっています。運営推進会議にも参加があり、取り組みの具体的な内容等、運営状況についても報告しています。2ヶ月に1回開催している市のグループホーム部会へも毎回参加し、各ホーム代表者、市職員、地域包括支援センター職員とともに情報交換や研修を行っています。	市の担当者とは日頃から電話やファクシミリで連絡し、書類提出時には情報交換を行うなど、連携を密にしています。運営推進会議には、市の担当者も参加し、ホームの運営状況を伝え、担当者からは市の人口動向、市内のグループホームの状況について情報の提供を受けています。市のグループホーム部会で研修や、市民対象の「介護フェスタ」では、市や地域包括支援センターと協働で取り組むなど、関係を深めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>大型施設であるが故の閉鎖的な空間ではありますが、常用している玄関は、開放出来る時は開放させて頂いています。事務所に大型犬がおり、怖がるご利用者もいる為、グループホームに入ってくる危険がある時は閉めさせて頂いています。又、感染症等が流行する時期はリスクを考え、施錠する場合がありますが、外部との行き来は可能な状態を開設当初より保っています。ホームのベランダの施錠は行なっていません。</p> <p>法人全体として、定期的に身体拘束に関する勉強会を実施し、行動や発言を制限しないようにする等、身体拘束に関する内容について学ぶ機会を得ています。</p>	<p>身体拘束や虐待に関する研修を実施し、利用者の尊厳を守るケアの確認を行っています。言葉による拘束についても、勉強会を開催しています。併設するデイケアセンターと同じフロアにホームの入口があり、事務所の大型犬が入ってくる危険があったり、感染症等の流行する時期には、入口を施錠することもあります。しかしながら、基本的にはホーム入口を開錠し、行き来は自由になっています。ホーム内のベランダは、自由に出ることができます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>大型施設であるが故の、施設にありがちな環境的なデメリットもありますが、常に多くのご家族や関係者の方々が来苑されることで、より開かれた環境にあることが大きなメリットと考えています。ご家族や外部の方々から常に見守られている事で、交流の刺激があり、それらが起立を維持させる為の抑止力となっていると思っています。又、職員の身体的・心理的ストレスの状況を把握し、無理の出ない勤務体制や希望の休日を配慮する事で、ご利用者に余裕をもった関わりが出来るよう努めています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度については、勉強会にてのみですが、机上で学ぶ機会を得ています。全ては知ることから始まると考え、机上の勉強でも意義深いことと思っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時に不安な事はないか、又、希望は必ず伺っています。じっくりとご家族のお話を伺い、不安なく利用して頂けるよう努めています。又、御家族に協力して頂ける事はお願いし、一緒にご利用者を支えていけるよう取り組んでいます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から面会の際に、ご家族の方からお話を伺うようにしています。意見箱を設置していますが、これまでに意見が入っていた事はありません。意見や要望は、まだまだ少ない状況ですが、日誌には希望や要望を記載する欄を設けることで、積極的に意見や要望を聞く姿勢をもち、共有してケアにつなぐことができるよう、職員への意識付けも行っています。	家族の面会時には、その都度声かけ等をして意見や要望を聞き、記録に残して職員間で共有しています。苦情や意見に対しては迅速に対応し、職員間で共有して改善に活かしています。家族に参加してもらい、「母の日カレーの会」も定着してきました。納涼祭・クリスマス会・敬老祝賀会には家族を招待し、交流を図っています。意見箱を設置していますが、これまでに意見が入っていたことはない状況です。アンケート実施時には、外出の機会を増やして欲しいとの要望があり、応えることができました。	意見箱の意見は出にくい状況ですが、今後はテーマを絞って意見を聞くなど、意見が出しやすい方法を検討されてははいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者には随時、相談・報告をしています。会議の場では厳しい意見も言われますが、ご利用者・職員のことを考えてくれており、職員の話をよく聞いた上でアドバイスをしてくれます。又、業務を改善する際には、一人ひとりに意見を聞いた上で検討し、改善に向けて一緒に取り組んでいます。	毎月1回、全職員参加の会議で意見を出し合っています。日常的にも、意見が出しやすい雰囲気づくりを大切にしています。管理者は、職員のメンタル面にも配慮しています。職員の「自身が上司から見守ってもらっている安心感」が、利用者への思いやりのあるケアに繋がっています。また、夜勤時には併設する老健との連携・協力があり、職員が安心できる職場環境です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	規模の大きな法人ではありますが、代表者である理事長は定期的に現場に足を運び、ご利用者への挨拶や職員へのねぎらいの言葉を忘れません。又、幼稚園の園長も兼任されており、ご利用者と園児との交流の場も考えてくれています。利用者本位のサービスが提供できるようアドバイスもあり、職員のモチベーションアップにつながっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市のグループホーム部会での勉強会に参加しています。個人の力量や拘束時間等にも配慮した研修を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	河内長野市では2ヶ月に1度の割合でグループホーム事業所全体の部会を実施しています。年間スケジュールを組み、勉強会や情報交換等を行い、互いの質の向上に取り組んでいます。同じ事業者同士ならではの連帯感があり、心強いです。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のみならず、ご家族や関係機関と連携し、スムーズなサービス導入となるよう努めています。その際は、ホームで出来る事の限界もお伝えするよう心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人のみならず、ご家族や関係機関と連携し、スムーズなサービス導入となるよう努めています。不安な事や要望はないかお聞きし、ご家族と一緒にご利用者をサポートしていきたい事もお伝えするよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生命を守る為に重要な事項と生活を守る為に重要な事項を職員間で共有し、サービスの導入に入ります。老人保健施設併設の特性を活かした支援も視野に入れていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身で出来る事は時間がかかっても行って頂き、職員は寄り添う姿勢で見守っています。ご利用者それぞれに役割があり、その人らしく生活できる事に重点を置いた関わりを心がけています。又、日々の生活の中で、一緒に笑いながら時間を共有していけるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力なくしては、ご本人を支える事は難しいです。面会や外出、買い物等、ご家族にしか出来ない事を協力して頂いています。問題ばかりにとられず、楽しいエピソードを積極的にお伝えしていきたいと考えており、ご家族と共に悩み、喜びを共有していきたい気持ちで、日々取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>外出や買い物は、ご利用者の知り合いがよく訪れるスーパー等を選んで外出しています。又、グループホーム入所前に併設の老人保健施設のサービスを利用していただご利用者も多く、老人保健施設のご利用者や職員に会いに行ったり、交流する機会も大切にしています。</p>	<p>家族と共に馴染みの美容院や、行きつけのスーパーへの買い物、お墓参り等、馴染みの関係を大切にしています。併設する老健からホームへ入居した利用者もあり、職員や施設利用者に出会いに行くこともあります。同じフロアのデイケアセンターの前を通ると、声を掛け合う友人もいます。利用者のこれまでの趣味を活かし、生け花や繕いもの等、楽しみが継続できるよう支援しています。毎日の散歩で地域の人々との顔なじみの関係や、仲良く座っておしゃべりを楽しむ仲間など、新しい馴染みもできています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>お一人が好きなお方や賑やかな環境が好きなお方、様々おられますので、意向に沿った支援に努めています。お一人が好きなお方でも、行事等への参加から関係が深まり、喜びにつながるケースもあります。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院への入院や他施設へ居所が変わられた以降も、ご本人やご家族と関わりを持たせて頂いています。長期入院により契約を終了した方でも、ご家族より近況や今後の方向性を相談したいと連絡を下さり、お付き合いをさせて頂くことがあります。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりからご利用者の思いを把握するように努めています。又、お一人お一人の願いやご家族の想いを大切にされた支援を心がけています。困難な場合でも共に悩み、相談させて頂き、その苦悩を共有する事で得られるものも多いです。	入居時には、利用者・家族から生活歴や暮らし方の希望・意向を聞き、シートに記録しています。本人の生活歴等を大切にしながら、その場・その時の利用者の感情や意思を尊重しようと、日常のケアの中で把握できるように心がけています。1対1になる入浴の場面等は、利用者の思いを聞く貴重な機会になっています。毎日の関わりの中での気づきや発見を記録し、職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入前に面接等で得られる情報もあれば、生活をしている中で得られる情報も多くあります。ご家族に生活のエピソードをたくさんお話する事で、後からわかった情報もあり、その都度、職員間で共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の過ごし方の好みを把握しています。お一人で過ごす時間を大切にされている方、賑やかに過ごす事が好きな方等、様々ですが、そればかりにとらわれず、交流の機会を提供したり、静かで落ち着ける場を提供出来るよう、場面や思いを反映した配慮に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者個人の主観で計画を立案せず、職員の多くの主観の中から客観性を見出し、計画に反映させています。又、ご家族との外出や面会等、ご利用者を一緒に支えていくという視点で、ご家族の支援も計画に盛り込んだ内容となるよう心がけています。 毎月モニタリングを実施し、3ヶ月に1回見直しも行っています。出来ない事よりも出来る事に目を向け、開設からの作って嬉しい・もらって嬉しいプランをモットーに取り組んでいます。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。「作って嬉しい・もらって嬉しい介護計画」をモットーに、その人らしい暮らしを支援する計画を作成しています。見直しは3か月毎に、モニタリングや全員での会議でできた意見を基に行っています。日常の関わりの中での気づきや発見、面会時の家族からの希望の聞き取りも、介護計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	具体的なエピソードを踏まえつつ、事実をありのまま記入するようにしています。記録記入について、職員間に多少の力量差はありますが、一人ひとりをよく観察し、記入するよう心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り柔軟に取り組んでいけるよう努力を行っています。ご利用者が快適かつ安全に生活出来るよう、ご家族に安心して頂けるよう、支援のあり方を考えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム内での日常生活と区別して、地域に外出する事はご利用者にとって良い刺激となっています。馴染みの少ない地域であっても、外出支援は個人の思わぬ力を確認出来る絶好の機会と考えており、今後も継続して取り組んでいきます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は毎週来訪しています。ご利用者との関わりを大切に、興味深い話や冗談を交えながら診察を進められ、ご利用者も不安なく笑顔で診察を受ける事が出来ています。他科受診や入院にあたっては迅速な指示を出して下さい、変化時はいつでも連絡して下さい、と言って下さるので、大変心強いです。又、歯科医には、必要時の往診だけでなく、年1回の検診もしてもらっています。	入居前からかかりつけの医療機関へは、希望があれば受診可能です。ホームの提携医は、毎週来訪しています。毎日バイタルチェックを行い、併設のデイケアの看護師に報告し、アドバイスを得ています。夜間や急変時には、併設する老健の看護師や医師に繋げることができ、利用者・家族、職員も安心できています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設デイケアの看護師に毎日状況を報告し、適宜アドバイスをもらえる関係にあります。日常的に療養や生活上のアドバイスがあります。又、夜間や緊急時は併設の老人保健施設の看護師に相談する事ができ、早期対応につながっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院にはいつも入退院の際、スムーズな連携をして頂いています。入院や退院時の日程調整から、緊急時における円滑な受け入れまで、日頃から協力があります。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状況に応じて、主治医・看護師を交えて相談し、必要に応じて、主治医からご家族へ状況の説明を行っています。 終末期に向けた支援として、ご家族の意向をふまえた上で主治医・看護師・介護職員にて話し合いを行い、今までに2名のご利用者の看取りを行いました。積極的に話し合いの場を持ち、ご利用者にとって安全な、ご家族にとって安心な支援ができるよう努めています。	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成し、家族にも示して説明を行っています。看取りの実施については、利用者や家族の意向をふまえた上で、主治医・看護師・職員で話し合いを行い支援していきます。これまでも看取りを実践し、職員は貴重な体験を日常のケアに活かしています。「ここで看取ってくださいと言われることが誇り」と思えるケアを目指しています。	今後は、看取りケアの中で出た職員間の声や検討した内容を、看取り対応マニュアルの整備に活かしてはいかげでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の老人保健施設の看護師を中心にした勉強会を実施しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルがあり、年に2回、ご利用者も交えて避難訓練を実施し、非常時における体制のあり方の見直しを実施しています。 災害備蓄品や飲料水等の保管を行っているだけでなく、法人内施設からも協力を得られる体制をとっています。	災害発生時のマニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施しています。訓練では、2階のベランダから避難する等を想定し、実施しています。併設する老健より、夜間帯も複数の職員の協力が得られる体制になっています。出火原因となりやすいコンセントの清掃も、定期的に行っています。非常災害時の水や食料品等の備蓄、防寒着等も準備しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者にとって一番身近な顔なじみの関係でいられるよう心がけています。他人行儀になりすぎず、馴れ合い過ぎず、状況によった対応をさせて頂いています。定期的に勉強会を行い、「他人にされて嫌な事はしない・言わない」を最低限のマナーとし、ご利用者は人生の大先輩であるという事を忘れずに対応しています。又、ご利用者の出来る事は見守り、できるだけ自己選択、自己決定できるよう努めています。	「他人にされて嫌な事はしない・言わない」を最低限のマナーとして、利用者の尊重とプライバシーを守るケアを行っています。接遇研修にも力を入れ、利用者を尊重するケアの大切さを確認しています。入浴時も異性の職員による介助が好まない利用者には、同性介助を実施しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めてしまうのではなく、ご利用者に選んで頂くという姿勢で取り組んでいます。何を食べたいのか、着たいのか等、日常生活の中でご利用者が自ら選択できるよう、職員は尋ねるようにしています。十分な意思表示が出来ない場合であっても、過去の経験やご家族からの情報等を現在に照らし合わせ、支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の制限決まりを優先させる場面はあっても、その中でご利用者の生活ペースに合わせたり、過ごし方の好みに合わせた支援を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力が大きく、今までの生活スタイルを大切にしたい衣類の持参等、こまめに支援して下さっています。ご利用者には着用したい衣類を選んで頂き、職員は季節に応じた服装が出来るよう見守りを行なっています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に約2回、夕食作りを行なっています。ご利用者の食べたい物や旬の物をメニューに反映し、食材の買い物、調理、盛り付け等をご利用者と一緒にしています。お米をとぐのが得意な方、野菜を切るのが得意な方、食器を拭くのが得意な方等、それぞれの得意分野を担当して頂き、皆で和気あいあいとお話をしながら取り組まれています。 3食とも併設施設で調理された物を運び、ご利用者が盛り付けています。昼食は職員も一緒に食べ、会話を交えながら楽しい雰囲気作りに努めています。	炊飯はホームで行い、副菜は併設施設で調理したものを、利用者と職員で運んでいます。盛り付けは得意な数名で和気あいあいと行っています。週2回の夕食作りはホームで行い、利用者と相談しながら食べたい物や旬の物を献立に反映し、買い物や調理などを楽しみながら行っています。おやつに鯛焼きやベビーカステラ、ゼリー等を作ることもあります。利用者は日常的に、炊飯、盛り付け、片づけにそれぞれの得意分野を活かし、楽しんで取り組んでいます。昼食は、職員と共に和やかに食しています。行事の時や「母の日カレーの会」には、家族と一緒に食べてもらう機会も作っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一日の食事量・水分量を記録しています。体調不良や好みの物しか食べる事ができないご利用者には、ご本人が食べたい物を補食として用意し、食事量やカロリーの維持に努めています。又、月1回、体重測定を行ない、増加傾向にあるご利用者には、主治医・看護師と相談し、運動量を増やす等の対応を行なっています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアを実施し、義歯の手入れが難しいご利用者については、職員にてお手伝いさせて頂いています。風邪が流行する季節でもありますので、うがい薬の提供や歯磨きの支援を実施しています。又、歯科医師による口腔内チェックも年1回、全利用者を対象に実施しています。歯科医は、口から食事を摂る事の重要性を専門家として熟知されている為、急な要請にも迅速に対応して下さっています。気軽に相談できやすい環境にあり、心強いです。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや水分量等を把握し、羞恥心に配慮して声かけや時間誘導を行なっています。又、排尿便日誌をもとに失禁状況を把握し、声かけのタイミングの検討や排泄サインの観察等を行い、失禁を減らし、ご利用者に気持ち良く過ごして頂けるよう取り組んでいます。可能な限り、トイレでの排泄を支援しており、場合によっては職員2名での対応もしています。	基本は、トイレでの排泄を支援しています。入居前にリハビリパンツを使用されていた利用者が、排泄パターンを把握しての誘導で、布パンツに替えられた事例があります。各居室にトイレが設置されているので、安心して排泄することができ、自立に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に冷水をお勧めしたり、バナナやヤクルト等の乳製品を活用する等、出来る限り下剤に頼らない工夫を行なっています。適度に体を動かすような場面も提供しています。お一人お一人、排便状況の観察を行ない、便秘時には主治医・看護師に相談し、予防に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	限られた職員の体制とご利用者の体調や身体状況に合わせて、出来る限りご希望の時間帯や曜日に配慮した支援を実施しています。又、身体状況に合わせて、グループホームの浴槽での入浴が難しいご利用者については、併設の施設の機械浴にて入浴して頂いています。お湯の温度等、習慣や好みをお聞きしながら、気持ちよくかつ安全に入浴して頂けるよう心がけています。異性の職員による介護場面もありますが、ご利用者の気持ちを常に考え、配慮に努めています。	入浴は基本的には週2回ですが、希望があれば入りたい時に入浴してもらいます。ホームの浴槽での入浴が困難な場合は、併設する老健の機械浴を使用し、安心して入浴をしてもらいます。湯加減や入浴時間も、利用者一人ひとりの意向に沿って支援しています。季節のゆず湯や菖蒲湯、入浴剤等を用いて、楽しく入浴できる工夫をしています。入浴を好まない利用者には、さりげなく誘いながら声かけをして、無理強いせず入浴をしてもらいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間はありますが、夕食後はお一人お一人、ご自身のペースで過ごされています。夕食後すぐに眠られる方、テレビを見ながら横になる方、フロアで他のご利用者とおしゃべりを楽しんだ後に眠られる方等、様々です。ご自宅で使用していた馴染みの布団や枕を使用しているご利用者もおられ、安心して眠れるような環境作りにも努めています。 大型施設の為、決まり事も多々ありますが、可能な限り対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の副作用や内服の狙いを主治医に確認しています。又、主治医に全てをお任せするのではなく、その薬について職員自身が調べる事も大切であると考えています。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>職員は、特別な事は何もできませんが、笑う力を大切にした支援を心がけています。趣味や嗜好品、行ないたい事が一つでも実現し、笑顔で生活して頂けるよう支援しています。又、ご利用者の得意とする事を出来る限り実施していく事が、意欲の維持につながると考え、支援しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく希望に副えるよう支援しています。遠慮やそれぞれの性格もあり、希望を口にする事が難しいご利用者もおりますので、日常の会話等から思いを確認し、外出の支援に活かしています。近隣への散歩や犬との散歩、スーパーへの買い物を実施しています。外出が難しい場合であっても、ホームの外(併設の施設内)に出る事で気分転換や刺激となるよう努めています。ご家族のご協力が多く、定期的な外出の支援や外泊、外出が難しい場合はこまめな面会等、個人の状況に合わせた外出や気分転換へのご協力があります。	毎日の犬の散歩や、スーパーへの買い物に出かけています。近郊は豊かな自然に恵まれ、近くの桜や田畑の野菜や草花等、季節を問わず楽しみに散歩しています。職員は利用者が外出することで、気分転換や生活に活気が出ることを認識し、外出支援をしています。リビング前の広いベランダは日当たりも良く、季節の花々を植え、身近な気分転換の場所になっています。家族の協力もあり、買い物や墓参り、外泊などの支援もしています。法人全体で年に1回一泊旅行があり、利用者、家族、職員等が参加し、喜ばれています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の支援により、小額でも、ご利用者が自由に使えるお金を所持されています。自動販売機でジュースを購入したり、売店や訪問販売、近隣のスーパーで果物やお菓子を購入されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話をしたいと希望された時は、いつでも事務所から電話をする事が出来ます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大型施設である為、家庭的な雰囲気とは異なった環境であることは否めませんが、出来る限りの工夫を行なっています。季節の花を生ける、ベランダに季節の花や野菜を植える、季節の飾り付けを行なう等、家庭的な雰囲気に近づけるよう環境作りに努めています。又、犬と一緒に過ごす事がご利用者にとって癒しとなっています。	ホーム内は明るく、穏やかな雰囲気です。リビングには、ソファや椅子を配置し、ゆったりとくつろぐことができます。リビングの一部は畳スペースとなっており、掘りこたつを設置し、雛人形を飾っています。ベランダにもテーブルや椅子、花が植えられ、自由に出入りでき、天気の良い日はお茶を楽しむスペースとなっています。利用者と一緒に活かした花や、飾りつけから季節を感じることができます。併設のデイケアから一歩グループホームに入ると、家庭的な雰囲気で、落ち着いた空気感が感じられる空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中には、ソファ・籐の椅子・和室・ベランダがあります。ソファで編み物をしたり、ベランダで犬と日向ぼっこをしたりとご利用者それぞれの思いに合致した居場所があるように思います。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力があり、長年使用されていたタンスや大切な写真、使い慣れた布団等、たくさんの馴染みの物を持参して下さっています。それを職員は大切に活用させて頂いています。	居室の広い掃き落としの窓からは、豊かな自然と、遠くの住宅地に向かう道や桜並木、田畑が見え、心落ち着く空間になっています。利用者は、お気に入りのぬいぐるみやタンス、手づくりカバーがかかった座布団等、馴染みの物に囲まれて、居心地よく過ごしています。自身の居室へ先導し、案内をしている利用者は生き生きとした表情をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大型施設である為、ある程度の標準的な物は既設済みですが、個人の力に合わせた工夫を行っています。ご本人が塗られた塗り絵を居室入り口に飾ったり、ドアの取手にぬいぐるみをつける事で、ご自身の居室を認識し、間違わなくなったご利用者もいらっしゃいます。まだまだ十分ではありませんが、簡単な工夫でもご利用者の不安が解消する事が多いので、今後も普段の生活の中の気付きを大切に環境づくりに取り組んでいきたいと考えています。			